2　ジェンダーからみるGPA値に与える要因について

曾 怡馨

はじめに

現在、学校でも職場でも、あらゆる分野で女性の役割は大きく変化した。女性はかつてよく「良妻賢母」と結びつけられたが、現代は晩婚化や非婚化が進み、女性にとって結婚や子供を産み育てることは、必ずしも当たりまえではない。日本における女性の高等教育のはじまりは、明治時代に遡ることができる。明治 5 年、東京神田に官立東京女学校が設置され、女性の教育は本格的になった。大正時代に入ると、旧帝国大学は女性の入学を認めることとなった。戦前の日本の高等教育では、女子学生はごく少数だったが、現在、女性の大学進学率は高まっており、女性は「良妻賢母」になるべきだとは必ずしも言えないだろう。

高等教育を受けた今の女性たちの大学での成績はどうだろうか。そこで、男性と女性のGPA 値を出して比較すると、女性の GPA 平均値は 4.06 は男性の平均値の 3.18 より高い。そのことから、男性より女性の成績が高いことが分かった。男性より女性の GPA が高いのには様々な要因があると考えられる。その要因について分析していきたい。

表 1　性別と GPA

	GPA	
性別	平均値	中央値
男性	3.18	3.00
女性	4.06	4.00
合計	3.69	4.00

そこで、男性と女性の GPA を左右する要因を探るため、いくつかの仮説を立て分析を進みたい。

2.1　大学入学前

最初に分析したいのは、大学に入った前と大学に入った学校での成績との関係である。その中で、とりわけ「高校三年生の成績」と「大学志望順位」は GPA 値と関係はあるのかに注目したいと思う。高校での成績は大学の成績に影響し、また大学の志望順位は大学の成績にも影響すると考え、高校での成績が良い学生は大学の GPA も高い、また同志社大学

を第一志望にした学生のほうはGPAも高いという仮説を立て、分析を行う。

大学に入る前、高校でいい成績を取る人は大学でも成績が良いと考えられる。それを確認するために、高校3年生の成績とGPAのクロス表を出してみた。

表 2　GPAと高校3時の成績

		高校3時の成績			
		上のほう	中	下のほう	合計
GPA	高いほう	116	44	42	202
		57.40%	21.80%	20.80%	100.00%
	低いほう	62	36	49	147
		42.20%	24.50%	33.30%	100.00%
	合計	178	80	91	349
		51.00%	22.90%	26.10%	100.00%

p＝.001

上の表を見ると、GPA値は高いほうの学生は、高校三年生の成績もかなり上のほうであったことが分かった。つまり、高校で頑張って勉強した学生は、大学に入っても良い成績をとる割合が高いのである。それでは、男性と女性の高校三年生の成績表現はどうだろうかを見てみよう。

表 3　性別と高校3時の成績

	高校3時の成績	
性別	平均値	中央値
男性	3.05	3.00
女性	2.42	2.00
合計	2.68	2.00

以上の高校三年生の成績の平均値をみると、女性のほうは男性より良い成績をとれたことが分かった。それは、女性のGPA値が男性より高い一つの原因であろう。

さらに、大学の志望順位と GPA と関係していると考えられる。ここでは、大学の志望順位が高ければ高いほど大学での成績表現も良いという仮説を立てた。そこでまずは、性別と志望順位のクロス集計表と 、GPAと志望順位のクロス表をみた。

表 4　性別と志望順位

性別 と 志望順位 のクロス表

		志望順位			合計
		第一志望	第一志望意外（国公立志望）	第一志望以外（私立他大志望）	
性別	男性	100	32	20	152
		65.80%	21.10%	13.20%	100.00%
	女性	156	46	11	213
		73.20%	21.60%	5.20%	100.00%
	合計	256	78	31	365
		70.10%	21.40%	8.50%	100.00%

p=.025

表 5　GPA と志望順位

		志望順位			合計
		第一志望	第一志望意外（国公立志望）	第一志望以外（私立他大志望）	
GPA	高いほう	140	46	17	203
		69.00%	22.70%	8.40%	100.00%
	低いほう	102	30	15	147
		69.40%	20.40%	10.20%	100.00%
	合計	242	76	32	350
		69.10%	21.70%	9.10%	100.00%

p＝.774

表 4 から、男性の中に第一志望順位は 65.8%で一番多いとみられ、また女性のほうも第一志望順位の 73.2%は一番多いことがわかる。そのなか、女性は男性より第一志望順位の割合が高いこともわかる。しかし表 5 には、GPA の高いほうでも低いほうでも、第一志望順位の割合が高いので、志望順位による GPA の差はあまりないといえる。

2.2　授業での表現について

1 節では､大学に入る前の高 3 時の成績や志望順位が GPA に影響を与えたのかを考察した。しかし、大学での成績が必ずしもこの二つの要因だけで決まるとはいえない。学校での生活、例えば授業での取り組みや学校の先生との関係、人間関係も重要な要因として考えられる。そこで今度は、授業での取り組みについて分析を進めていきたい。

まず、一般的に言うと、予習・復習することによって、授業で学んだ内容を頭に定着さ

せることができ、受験勉強の効率も上げることもできると考えられる。したがって、予習・復習する学生のほうはGPAが高いという仮説を立て、GPAと授業への予習・復習の関係をみた。

表 6　授業の予習・復習とGPA

		GPA		
		高いほう	低いほう	合計
授業の予習･復習	する	92	44	136
		67.60%	32.40%	100.00%
	しない	105	103	208
		50.50%	49.50%	100.00%
	合計	197	147	344
		57.30%	42.70%	100.00%

p＝.002

このクロス表から、授業の予習・復習するほうをみると、予習・復習する学生のなかにGPAが高い学生は67.6%を占め、低い人の32.4%より高いことがわかる。また、予習・復習をしない学生においては、GPAが高い人と低い人の割合がほぼ同じである。予習・復習する学生はGPAも高いのである。

今度は、予習と復習をすることについて、性別に見てみよう。

表 7　性別と授業の予習・復習

		授業の予習･復習		
		する	しない	合計
性別	男性	51	100	151
		33.80%	66.20%	100.00%
	女性	90	120	210
		42.90%	57.10%	100.00%
	合計	141	220	361
		39.10%	60.90%	100.00%

p＝.081

その結果、どちらも、予習する人よりしない人の方が多いが、男性より女性のほうはよく授業の予習・復習することが分かった。以上のことから考えると、女性の方が男性よりも、授業の予習や復習をすることが、女性が男性より GPA が高い要因の 1 つであることがわかる。

次に、教員によく質問する学生ほど GPA も高いと考えられる。それを確認するために、「教員に質問」する頻度を問うた項目と GPA とのクロス表を出してみた。

表 8　教員に質問と GPA

		GPA		
		高いほう	低いほう	合計
教員に質問	する	93	57	150
		62.00%	38.00%	100.00%
	しない	104	90	194
		53.60%	46.40%	100.00%
	合計	197	147	344
		57.30%	42.70%	100.00%

P=.019

その結果、教員に質問する学生としない学生を比較すると、教員に質問する学生のほうは GPA が高いことがわかる。さらに、性別で比較したらどうなるのか。

表 9　性別と教員に質問

		教員に質問		
		する	しない	合計
性別	男性	79	72	151
		52.30%	47.70%	100.00%
	女性	85	125	210
		40.50%	59.50%	100.00%
	合計	164	197	361
		45.40%	54.60%	100.00%

p＝.026

性別と教員に質問のクロス表を見れば、男性の方が女性より教員に質問する傾向があり、統計的にも有意な結果となっている。

また、男性のほうは教員に質問する割合はしないほうが高いと分かり、しかし、女性のほうはあまり先生に質問しないことが分かった。そのことから、教員に質問するほうはGPAが高い、しかし、これは女性のGPA値は男性より高い要因にならない結果となった。

今度は期末テストやレポートの準備とGPAとの関係について考えたい。期末テストとレポートはかなり点数に影響されていると思う。そこで、期末テストとレポートの準備をする人はGPAの値も高いという仮説を立てた。そのため、まずはGPAと期末テスト・レポートの準備のクロス表を出して、さらに性別で比較していきたい。

表 10　期末テスト・レポートの準備とGPA

		GPA		
		高いほう	低いほう	合計
期末テスト･レポートの準備	する	167	103	270
		61.90%	38.10%	100.00%
	しない	30	43	73
		41.10%	58.90%	100.00%
	合計	197	146	343
		57.40%	42.60%	100.00%

p＝.001

表 11　性別と期末テスト・レポートの準備

		期末テスト･レポートの準備		
		する	しない	合計
性別	男性	118	33	151
		78.10%	21.90%	100.00%
	女性	165	44	209
		78.90%	21.10%	100.00%
	合計	283	77	360
		78.60%	21.40%	100.00%

p＝.855

上の表から、やはり期末テストやレポートを準備する学生はGPAの高いことが分かった。しかし、性別を見ると、男女の割合はほとんど同じであった。このことから、女性のGPA値がより高い原因は、期末テスト・レポートの準備と特に関係していないことがわかる。

次に相談相手の存在とGPAとの関係についてみてみよう。先輩や同級生の相談相手がいれば、生活の悩みだけではなく学校の授業に対する問題も一緒に解決できるだろう。その中、同じ学科の学生と他の学科の学生を分けて見てみよう。

表 12　性別と相談相手：同学科

		相談相手: 同学科		
		いる	いない	合計
性別	男性	135	17	152
		88.80%	11.20%	100.00%
	女性	195	12	207
		94.20%	5.80%	100.00%
	合計	330	29	359
		91.90%	8.10%	100.00%

p＝.064

表 13　性別と相談相手：他学部・他学科

		相談相手: 他学部･他学科		
		いる	いない	合計
性別	男性	122	30	152
		80.30%	19.70%	100.00%
	女性	180	24	204
		88.20%	11.80%	100.00%
	合計	302	54	356
		84.80%	15.20%	100.00%

p＝.038

表 14　相談相手：同学科と GPA

		GPA		
		高いほう	低いほう	合計
相談相手：同学科	いる	188	128	316
		59.50%	40.50%	100.00%
	いない	11	16	27
		40.70%	59.30%	100.00%
	合計	199	144	343
		58.00%	42.00%	100.00%

ｐ＝.038

表 15　相談相手：他学部・他学科と GPA

		GPA		
		高いほう	低いほう	合計
相談相手：他学部･他学科	いる	175	112	287
		60.98%	39.02%	100.00%
	いない	22	31	53
		41.51%	58.49%	100.00%
合計		197	143	340
		57.94%	42.06%	100.00%

P=.058

ここから読み取れることは、女性は同じ学科の学生と相談する割合が 94%も占め、男性はやや少ない 88%であった。また男性でも、女性でも、同じ学科の中で相談相手となる学生はかなり多いと分かった。

次に、他学部・他学科について、同じように男性と女性は相談相手になる人がいると答えた学生は半数以上も占める。やはり同学科の学生のほうは多い、つまりどちらかといえば、大学生は相談したいことがあるときには、同じ学科の先輩や友達のほうに相談する場合が多いのである。

さらに、GPA と相談相手の関係について、表 14 によると同学科には相談相手がいると答えた学生の半数以上は GPA のいいほうであることがわかる。そして表 15 には、他学部・学科には相談相手がいる学生のなかに、GPA は高いほうの学生が 60%以上も占めている。けれども、関連はやや弱かったこともみられる。つまり、他学科の相手がいるかどうかは GPA

の値とはあまり関係ないといえる。

2.3　大学への満足度と GPA

ここまで、大学で授業への取り組みや人間関係が GPA と関係はあるかどうか分析してきた。最後に、卒業生が大学生活を振替てみたときの自分の大学生活をどのように評価しているかをみてみよう。そこで、大学への充実度および満足度は GPA に関係はあるかどうかを分析することにする。GPA が高ければ高いほど、授業への満足度も高いはずと思われる。また、GPA が高い学生ほど充実した大学生活を過ごしてきた感じると思われる。それでは、以上の二つの仮説を立て GPA と授業への満足度と GPA と生活充実度のクロス集計表を出し、さらに性別で授業への満足度と生活充実度のクロス集計表を出して比較してみよう。

表 16　性別と授業満足

		授業満足: 大学での授業全般			
		満足	どちらともいえない	不満	合計
性別	男性	104	37	10	151
		68.90%	24.50%	6.60%	100.00%
	女性	166	33	11	210
		79.00%	15.70%	5.20%	100.00%
合計		270	70	21	361
		74.80%	19.40%	5.80%	100.00%

p＝.082

表 17　GPA と授業満足：大学での授業全般

		授業満足: 大学での授業全般			
		満足	どちらといえない	満足しない	合計
GPA	高いほう	154	37	6	197
		78.20%	18.80%	3.00%	100.00%
	低いほう	104	30	12	146
		71.20%	20.50%	8.20%	100.00%
	合計	258	67	18	343
		75.20%	19.50%	5.20%	100.00%

p＝.084

表 18　GPA と学生生活充実

		学生生活充実			
		充実していた	どちらともいえない	充実していなかった	合計
GPA	高いほう	187	8	2	197
		94.90%	4.10%	1.00%	100.00%
	低いほう	130	4	7	141
		92.20%	2.80%	5.00%	100.00%
	合計	317	12	9	338
		93.80%	3.60%	2.70%	100.00%

p＝.073

表 19　性別と学生生活充実

		学生生活充実			
		充実していた	どちらともいえない	充実していなかった	合計
性別	男性	142	4	6	152
		93.40%	2.60%	3.90%	100.00%
	女性	190	8	3	201
		94.50%	4.00%	1.50%	100.00%
	合計	332	12	9	353
		94.10%	3.40%	2.50%	100.00%

p＝.284

以上のことから、まずは GPA と大学での授業全般への満足度について、GPA が高いほうの学生は満足度も高いことと分かった。また、全体的に見れば男性より女性のほうは授業への満足度が高いと見られた。そこで、女性は授業への満足度が高いので GPA も高いといえる。一方、生活充実度について、GPA 値の高い学生は大学の生活に対し、充実していたことがみられた。また、男性と女性の充実度の割合はそれぞれの 93.4%、94.5%であまり差は見られなかった。したがって、男性と女性とも大学の生活充実度はかなり高く、満足していたことが分かった。しかし、クロス集計表をみると、生活充実度と GPA との関連は見られていなかった、授業満足度が高ければ高いほど GPA も高くなるとは考えられるが、生活充実度は高い学生は必ずしも GPA が高いとはいえない結果となった。

2.4　まとめ

これまでの分析によって、ジェンダーからみる GPA 値に与える要因が見えてきた。仮設検証により分かったことを整理して以下のようである。

まずは、高校 3 年生の成績はかなり大学の成績と繋がっていると分かった。自分の経験

からいうと、高校で頑張って勉強して良い大学に入れば、将来の就職にプラスになれるし、大学に入ると楽しい大学生活を送ることができると常に先生や先輩に言われた。しかし、今回の分析結果をみると、高校で良い成績を取った学生は大学に入るとかなり高いGPAを取ったので、大学では単に遊ぶ場所だけではなく、学ぶ、人間関係を築くところでもあると実感した。

さらに、ジェンダーの話に戻ると、高校三年生の成績と大学の成績は男性より女性のほうが良い結果となった。つまり、最初に書いたように男性に比べ女性のほうが成績が良いのである。それは、一般的には、男性のほうは一つのことに集中する傾向があるので、天才は男性のほうが多いと言われる。このように考えると大学の授業は多様性のあるので、男性より女性の成績が高いのではないか。

また、授業への取り組みについて、以上の分析から、最もGPA値と関係があるのは授業の予習・復習をきちんとやるかどうかと分かった。また、男性でも女性でも学生はなかなか先生に質問しない傾向が見られるので、先生に質問するより自分できちんと勉強するほうがいいと思い、或いは同じ学科の学生に答えを求める学生のほうが多いではないか。

最後に、男女のGPA値に与える要因の中に、一番影響されたのはやはり大学の授業への満足度である結果となった。授業への満足度が高ければ高いほどGPAも高い、男性より女性の満足度が高いので、GPAも高いという仮説は成立したといえる。

今回は以上の書いたように分析した。しかしながら、男性や女性のGPAに影響を与える要素は他にもたくさんあるはずである。したがって、さまざまな要因の解明が今後の課題であると思う。